

逮捕（仮）

作 奥山雄太（ろりえ）

【登場人物】

弟子 万福亭 弟子雄でしお

妻 網（アミ）

被害者 弓（ユミ）

警察官 フルタ

【事件直後】

八月某日。

件の事件の直後である。

師匠の部屋には衣服をはだけた弓の姿。

弓「……落語」

デシオが入ってくる。

弓「最初に好きになったのは、私だったんだよ」

デシオ「師匠は？」

弓「……逮捕」

けたたましい音楽と眩い光の波。

やがて、音楽落ち着いて、刑事のフルタがやってくる。

明かりはなおも怪しげに揺らめいている。

弓「ボタン取れちゃった」

デシオ「師匠にやられたの？」

弓「……」

デシオ「……師匠にやられたの？」

フルタ「弓ちゃん。そろそろ、署の方に」

弓「……はい」

弓、フルタに連れられて出て行く。

一人残されたデシオを残して、明かりが落ちていく。

デシオ「馬鹿みたいに晴れ渡った空だった。僕は三階に駆け上がった窓から身を乗り出した。遠くに見たことのある雲が流れている……夏だ。また夏が来たのだ。アスファルトの焼ける匂い、虫の声と風の音……知ってはいたけれど、やっぱり夏は来るのだ。どんなに生き急いでも、目を閉じて歩いても、毎年必ず夏はやって来て、その度に思い出す……」

風鈴の音。

デシオ「この年の八月、師匠はおんなのこをいじめて、逮捕されてしまった」

再び音楽が高鳴り、一瞬の輝きの後、暗転する。

【網への電話】

携帯電話の音。

明転。

家の外、買い物帰りの網。

明かりに網が入ってくる。

網、携帯電話を取り出して。

網「はいはい……万福亭です」

網、携帯電話を落とす。

デシオが喋りながら入ってくる。

デシオ「おかみさんがその報せを受けたのは同じ日の午後二時。夕飯の買い物に出ていた時だった。突然、電話の向こうから『お宅の旦那さんが、女性を暴行しました』」

フルタ、何処かに現れて同時に、

フルタ『『お宅の旦那さんが、女性を暴行しました』』

デシオ「なんて言われて、すぐに飲み込めるはずもなく、おかみさんはどうにかうちに帰るまで我慢したのだが、僕の顔を見るなり泣き崩れたのだった」

網、縁側から部屋に上がり、デシオに泣きつく。

フルタだけに明かり。

フルタ「フルタです（敬礼）。報告します。報告、と言ってもすぐくシンプルな事件です。八月十一日、午後一時過ぎ、落語家の万福亭獅子雄が、妻、網さんの妹である弓さんに暴行。叫び声を聞いて駆けつけた一番弟子が本署に通報、同1時37分、強制わいせつの容疑で万福亭獅子雄を逮捕いたしました。自分が、逮捕いたしました（敬礼）。現在、容疑者は本署にて拘留中。「自分がやった」、と容疑は認めておりますが、それ以外は黙秘を続けており、やや不可

解な点もあります。引き続き取り調べを行いますが、今日は子供に会える日なので、帰ります（敬礼）」

フルタ、去る。

【泣き止んだ網】

師匠の部屋。

泣き止んだ網とデシオ。

デシオ「おかみさん、大丈夫ですか」

網「ありがとう、なんとか落ち着いた」

デシオ「飲み物、持って来ましょうか」

網「ああ、悪いね」

デシオ、水を取ってくる。

網「私、パトカーって初めて近くで見たわよ」

デシオ「ああ、僕もです」

網「あんなに白いのね。なんか、怖い顔してるし」

デシオ「顔？」

網「もっと、パンダみたいなの想像してたけど、アレはパンダじゃないね。シャ

チね、シャチ」

デシオ「シャチ？ シャチって、イルカ？」

網「イルカの怖い奴。人を喰うのよ。陸に身を乗り出して馬ごと海に引きずり込むの」

デシオ「怖い」

網「それで、喰うのよ、人を」

デシオ「怖い」

網「バリボリ」

デシオ「怖い」

網「うん……（お水を飲む）」

デシオ「……」

網「うちの前にパトカーが停まってるだけですごい事なのに、そのパトカーに旦那

那が連れてかれちゃうのを見るってのは、かなり、来るわね」

デシオ「はあ……」

網「……うちの人、シヤチに攫われちゃった」

デシオ「……」

網「今頃、海の底かしら」

デシオ「……おかみさん、」